

令和2年12月19日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム  
令和2年度 第8回

横軸の知識

おはようございます。本年最後のフォーラムということで、神藤議長の開会挨拶も岡本理事長の素読も中身が濃いなと思いました。大変良かったです。

神藤議長の話を聞いていて思い出しましたが、テレビでコロナの家庭内感染をした家族を取材していました。本人は具合が悪くなったけれども熱中症だと思い込んでいて、家族5人にうつしてしまったということでした。思い込みというのは恐ろしいですね。思い込んでしまうと、まず判断をしません。それが怖いと感じました。今も会場に入る前に、自分で体温計をおでこに当てて熱を測りました。仮に少し熱があったとしたら、自分の実感で大丈夫だと判断するか、やめようかの判断をするわけです。それが、思い込んでいると、<ちょっと待て>がない。ですから神藤議長の話を聞いて感じたのは、思い込んでいる時には、<ちょっと待て>が必要だということです。そうすると判断の三原則も出てくるし、縦軸も横軸も出てくる。実態に即して考えることが出来ます。

岡本理事長の素読は、最初に子張について説明をし、意識もしてくれました。私が普段参考にしてている本は、貝塚論語・宇野論語・渋澤論語の三つですが、岡本理事長は加地論語を使っていますね。というのは「士は危きを見ては命を致し」という部分で、私が参考にしてているものは君主を対象にして考えた解説ですが、加地先生は国家を対象にしています。ですから安倍さんも出し、菅さんも出しておられました。楽しく聞かせて戴きました。論語は色々な方が解説をしておられるので、参考にして戴くとよいと思います。他にも宮崎一定先生の書かれた解説も面白いと思っています。

ちなみに加地伸行先生は、学者は新しい学説を打ち立てることで学者として認められると主張されていて、常に物議を醸すような発言をされています。学者は普通、順番に解説していった最後に結論を言いますが、加地先生は最初に結論をポンと出すので、世間がきょとんとしてしまうくらいがあります。論語の解説もそうです。ですからある程度学びが進んだ方は、そういう読み方をすると良かろうと思います。

話が逸れますが、安岡正篤先生は年をとられてから、「先生は質問に答える時など、改めて書籍や文献を調べ直しされますか」と聞かれ、「私は若い時に一心不乱に勉強をしたので、みな頭の中に入っているから、それはしない」と答えておられます。

佐藤一斎は「年をとってきたものだから、昔一生懸命覚えたものはすべて忘れてしまった」と書いています。おそらく、みな血肉になっているから反芻はしないということでしょう。

また、中島敦の書いた文章は、批評家たちから「論語を読み込んで、すべて血肉にしていた人でなければこういうものは書けない」と評価されています。

更に、『孔丘』という小説を書いた作家の宮城谷昌光さんは雑誌のインタビューで、孔子について様々な資料を集めて年表を作り、それを部屋中にベタベタと貼って、ようやく長年かけなかった『孔丘』が書けたと語っていました。その際、白川静先生と加地伸行先生の書かれた孔子像を参考にし、他のものはあまり読まなかったそうです。これは、横軸で沢山の知識を入れるのはよいけれども、いざここだ！という時は自分がこれと思ったものだけ集中して読んでいく。そこで自分のイメージが固まったということだと受け止めています。そういう点で言うと、論語を読む時には、自分が良いと思う学者を選んで、その方が書いたものに一度どっぷり浸かって読んでみるとよい。それが自分の血肉になったならば、次に他の方のものを読んでみようという気になります。

ちなみに井上靖の書いた孔子は、理屈ばかり、お説教ばかりで私はあまり楽しくありませんでした。できるだけ人柄を出してくれるのがよいと思っています。

また話が逸れますが、学者という言葉が沢山出て来ました。私が論語を教えて戴いた石川梅次郎先生は、「難しいことを分かりやすく言うのは良い学者で、簡単なことを難しく言うのは似非学者だ」と言われました。だから、まともなことを勉強していきなさい・・・と教えて戴きました。

私は今、中江藤樹を書いています。西晋一郎という学者が『中江藤樹の学徳』という本の中で、「中江藤樹は世の常の学者にあらず。藤樹は行者である。仏教で言う修行者である」と書いています。更に、「藤樹先生の背後には光がある」とも書いています。釈迦にしるキリストにしる、世に聖人と言われる人は背中に光輪を持っている。今風に言えばオーラがあるということだと思います。

神藤議長の挨拶と岡本理事長の論語の解説から、話が横へ横へ広がっていますが、これは雑知識・横軸の知識を増やしていることをご紹介します。次から次に連鎖で広がるだけの知識があると、また集中して引き寄せてくる事が出来る。横軸の知識を併せると、

瞬間的に知恵が発生します。知恵が発生した時は、自分の行動を無意識のうちに明確に指し示す、そう私は考えています。

### 危きを見ては命を致し、得るを見ては義を思う

中斎塾フォーラムの基本哲学は「知足」です。欲張らない・ほどほどでいこうという考え方です。世界各国は今、知足ではなくて自国ファーストばかりです。自国ファーストを進めるとガリガリ盲者になっていって、コロナのワクチンにしる治療薬にしる（私はあまり効果がないと思っていますが）むやみやたらに取り合いをする世の中は良いものではないなと思っています。

では、その意味で論語を見て参りましょう。今日は、子張第十九の1・2です。

子張篇は、孔子が亡くなった後、どういうお弟子さんがいたか、どういうお弟子さんが孔子門下をまとめていったかということを考えさせられる文章です。論語は孔子の言行録だと言われていますが、子張第十九には孔子の言行は一切書いていません。孔子の弟子たちの言行ばかりです。

子張については、孔子が先進篇で、才能は豊かだが人格的に圭角がある。とにかく出しやばりだから氣をつけなさい。過ぎたるは猶、及ばざるがごとし・・・と言っています。孔子が73才で亡くなった時、子張は25歳ですから、岡本理事長が解説した通り、孫のような感じで教育したのでしょう。

【一】子張曰く、士は危きを見ては命を致し、得るを見ては義を思い、祭には敬を思  
い、喪には哀を思う。其れ可ならんのみ。

子張が言いました。「君主に仕える者は、主の危険を見たら命を投げ出して働く。利益がある時は、筋の通った利益かを考える。祭祀の時は、祭神に対して畏敬の念を持つことを専一にして参加する。葬儀の時は、故人を偲んで心から悲しむがよい。この四つが備わっていれば、士として認められる。」

孔子が亡くなった後は、色々な弟子が自分の開祖はこの人だと崇めて、今で言えば派閥のようなものを作って自分達の勢力を拡大したわけです。ここは子貢の門人が子張に聞いたのでしょう。25歳の出しやばりの若者が、よくぞ私に聞いてくれたという気持ちで、声も少し上ずって答えているように感じます。

では、現代に置き換えて考えます。

「危きを見ては命を致し」・・・今の世の中で、命がけで人のために行動を起こしている人間はいるでしょうか。菅さんは官房長官の時は危機管理がよく出来ているという評価でしたが、総理大臣になったら駄目ですね。大人数での会食は駄目だと言いながら、自分は8人以上で、しかも2つも掛け持ちをしたというのですから。今の世の中、すぐに話が広がって行きますから、何故そんなことも分からないのかと思います。官房長官の時と総理大臣の時とは、身の慎み方が違います。総理大臣になったら、危機管理の仕方もおのずから変わるわけです。それを変えないで、官房長官のままでやっているから叩かれて当然です。

翻って会社で考えれば、副社長や専務が社長になった時はどうか。専務の時は許される、副社長なら許される、しかし社長になったら許されないということが沢山あります。私は、社長になったら副社長の給料の倍は貰った方が良いと思っていますし、社内でもそう言っています。なぜなら、トップとその次とでは仕事の中身がまるで変わるし、責任の重さが違います。政治家も同じです。

「得るを見ては義を思い」・・・元農水相が賄賂を受け取ったと騒がれています。目の前に来た100万だか200万だか知りませんが、義があるかどうかを考えないからいけません。

今のコロナ禍で、利益を上げているのは誰でしょうか。普通の商売をして、風が吹いたから儲けるというのは良いと思います。そうではなくて、ここで儲けてはいけないという所で儲けるのはあまり良いものではありません。

「祭には敬を思い」・・・お祭りに出かけて行った時は、観光客で見るだけでなく、祭神はどなたかを調べてから行くが良いですね。

「喪には哀を思う」・・・葬儀の時には悲しみを感じて出かけるが良いでしょう。悲しみの気持ちがなく参列するのは、如何なものかなという気がしています。私は若い頃は、葬儀の連絡を受けると行くか行くまいか迷いました。会社にとって良いか悪いか、仕事に繋がるか否かを考えて決めていたからです。途中でそれを変えました。今はそんなことは考えないで、お別れをしたいと思ったなら行く。会社のお客様であっても、お別れをしに行きたくないと思ったなら行きません。連絡を戴いた瞬間に、葬儀にいつて悲しむ気持ちがあったなら参列をすると決めました。

【二】子張しちょういわ曰く、徳とくを執とること弘ひろからず、道みちを信しんずること篤あつからずんば、焉いづくぞ能よく有ありと為なさん、焉いづくぞ能よく亡なしと為なさん。

世の中で役に立たない人間はこういうものだという問答です。

子張が言いました。「徳を守ることが少なく、道を学ぶにあたって熱心でなければ、生きている時には役に立たないし、死んだ後もすぐに忘れられてしまうから影響など残らない。」

やはり子張はかなり言い方に毒がありますね。そういう部分を孔子は諫めたのだと思います。

「徳を執ること弘からず」の部分を考えます。先ほど、西晋一郎先生が「中江藤樹が行者である。背中に光が見える」と書いていると言いました。藤樹は何故聖人と言われたか、ずっと調べているうちに納得しました。それは、日々が徳業の実践でした。毎日、徳を行うにはどうしたらよいかと考え、実践し続けている。そういう日々の行いをお弟子さんが見て、自分もこうしてみたいと思ったのでしょう。

また、「焉んぞ能く亡しと為さん」の部分で考えると、中江藤樹の葬式には304名が参列したという記録があります。直接のお弟子さんは90名強ですから、藤樹学の広がり方が大変なものだったということが分かります。聖人と言われるに値する大変な人物だったと感ずります。

### 「辛丑」——新しい時代の幕開け

では、本日のテーマに参ります。来年はどんな大きな流れがあるか、日本の国ベースで考えます。

来年は「辛丑」（しんちゅう）です。「辛」は辛い・酷い・苦しい。「丑」は一步一步進んで行く。何らかのものが始まって、少しずつ前へ着実に進むという意味合いですので、人間にとって良いものと悪いもの両方が生まれると思っています。何が生まれるかという点、新しい時代の幕開けだと感じています。

今回、無理やり新しい時代の幕を開けてくれたのはコロナです。ウィルスとの戦いは、ペストがあり、スペイン風邪があり、最近はサーズやマーズがあります。地球上には、動物・植物・鉱物・細菌が存在し、生命があるのは動物・植物・細菌です。細菌は何か寄生するわけですが、今まで野生動物に寄生したのが、人類が増え過ぎたことによって野生動物が減少して人類に寄り始めたという状況です。

今朝の日経新聞に、コロナウィルスの感染者は世界で7495万8000人、死亡者は162万2000人という数字が書いてありました。過去の細菌との戦いで見ると、人口比で見れば非常に少ない数字です。ペストの時は2億人の人口で5000万人が亡くなったという記録があ

ります。亡くなられた方には申し訳ないのですが、亡くなり方がまだまだ少ない。人類は77億人が100億人を超す勢いで増殖中です。人類が減らない限り、細菌は更に増殖する。そういう状況下で起きたコロナ禍ですから、来年はもう、コロナとは共存するニューノーマルの時代に入っていておかしくないと思っています。来年は、ニューノーマルなどという言葉も使わない、それが当たり前になると感じます。

そうなるが無意識のうちに我々が心得えなければならないのは、物には触らない、人には会わない、この二つですね。これを私は来年のキーワードで考えていこうと思います。今、スマホはタッチしていますが、これも触らないで操作することになると思います。声で操作するか、指の動きを感知して動くようになると思っています。会わないというのは、私は今オンライン診療を受けています。かかりつけ医には行かずに画面を見ながら診察を受けて薬を送ってもらう、これが当たり前になって来ました。

触らない・会わないをキーワードで考えると、仕事のチャンスが無制限に広がったと感じます。触らない仕組み考えたビジネス、会わないで始まり完結するビジネス、こえは相当広がります。それを拡大していくと、本人確認の仕方も、会わずにすることが必要になります。そう考えれば、今デジタル通貨の話が出ていますが、これも触らないし・会わないで本人確認が出来てお金のやり取りが出来るわけですから、ますます広がっていくであろうと思います。また、物流が来年は大変大きな脚光を浴びると思います。物流も人が運ぶのではない、触らない・会わない自動化が凄まじい勢いで伸びると思います。ドローンが宙を飛び、自動運転による車の移動によって物流がどんどん広がると思います。そうすると、そういうものを賄うために物流倉庫、今のアマゾンの何倍もの基地が必要になって来るのではないかと思います。

人がものを運ばない社会、本人確認も会わない・触らないで出来る社会・・・そうなった場合は、スマートシティが更に広がるだろうと思います。政府が考えるスマートシティと私が考えるスマートシティは少し違います。私が考えるスマートシティは、過疎地域を選び、ある程度まとまった人間が移住する。そこはAIが当たり前、食糧も自給自足が当たり前で、機械化をして食べ物を作り備蓄する。そこに移住した人たちがその行政に参画する。そういうスマートシティが日本各地に、地方を中心としてどんどん広がっていく。そういう状況が来年の動きだろうと思っています。

来年の流れを考えると、自然災害があります。「辛」は辛いと申しました。私は、3.11が再現すると思っています。3.11の年は「辛卯」、「辛」が一回りして来年に当たります。また、地球温暖化からみても、大きな津波が発生して日本列島に押し寄せる危険がある。

ですから、大きな地震・大きな津波、それから大きな陥没が起きると思っています。この前も調布市のトンネル工事で、陥没がありました。これは人為的災害ですが、自然による災害は、陥没の巨大さが違います。

今回のコロナは人為的災害に入るだろうと思っていますが、人力の及ばぬ所においてしまったので自然災害と見た場合、これから細菌はすさまじい勢いで新しいものが発生し、増殖すると思っています。前半で、「私はワクチンも薬も役に立たないと思っている」と申しました。何故ならば、ウィルスはどんどん変異します。多少は効くかもしれませんが、ウィルスは2、3ヶ月で変異するのに、1年かけて作ったワクチンがどれだけ効くかと思っています。

もう一つ、増税の流れです。過酷な増税をする国はだいたい滅びる。これは歴史で見ても明らかです。日本には古来、天皇が民の竈から煙がたちのぼらないのを見て税を免除したという神話があります。元来、日本はこういう良い国なのです。木内信胤先生も、国民が苦しい時は減税をすべきだと言われました。

今回たまたま、減税の動きが若干出てきたことは、私は歓迎すべきだと思っています。ただ、きちんとした哲学があって減税に舵を切ったわけではなくて、目の前の事に手を打っているだけのことで、すぐにまた増税論議が広がるとしています。なにしろ新規国債が110兆です。日本の国の予算が102兆ですから、1年間の収入くらいの借金です。多少の稼ぎでは間に合わないのが来年ですから、どう見ても増税の動きが出ます。

増税の動きが出る時に怖いと思うのは、終戦直後を同じことをやられたらたまりません。何度も申し上げている話ですが、終戦直後財産税はいくらだったか覚えていますか？ 当時はお金持ちには財産税が90%かけられました。最近政府が出した後期高齢者の医療費負担を2割にするという論議の時に、年収270万、170万、155万という区分けをしていました。表には出ませんが、120万という数字も出ました。これは、貧困層が更に細分化したことを政府が認めたと私は感じました。ですから財産税をかける時に、下手をすると120万の人にまで課税するのではないかと思っています。当然、年収によって税率が違いますが、終戦直後は確か20%くらいを貧困層にも課税しましたから、同じようなことになるとしています。いずれにしても凄まじい金額がかかってくるでしょう。富裕層でも、今回のコロナのようにべらぼうな赤字を負うと一気に貧困層に墜落する、そういう事例が来年は沢山出るでしょう。

纏めますと、来年は大きな流れで言えば、ニューノーマルで細菌と共存していく世界です。触らない・会わないがキーワードで来年は生きていくことになる。そうなった場合に政治家はどういう対応をとるか。今の政治家は全部落第だと思っていますので、自分で自分の身を守るしかない。そのための手を打っていかねばなりません。

ちなみに私は今年、保冷庫を買って玄米を備蓄しました。缶詰も備蓄してあります。この間、家にある相当古い缶詰を食べてみましたが、美味しくはないけれども食べられましたから、缶詰は役に立ちますね。他にも、渡良瀬川が氾濫した時の対策としてゴムボートを買って、実際に訓練をしてみました。そうしましたら、何とか生き延びられるかなという感じを持ちました。ということで、一年が終わるにあたって、具体的に来年に対する対策も若干したということです。

では、それを踏まえて恒例の質問を致します。今年一年間でお考え下さい。

○ 今年一年間、色々あったけれども良い年だったと思う方

何度も申しますが、良いこと・悪いことを天秤にかけないことです。良いことを拡大解釈して、悪いことは気にしない。良いことだけを見つめると、手が挙がります。

○ 今年一年間、嘘をつくことがとても少なかった方

○ 今年一年間、有難うと言ひ、有難うと言われることが多かったと思う方

有難うと言われることは良いことです。私は赤城山に籠っていましたから、有難うと言われることが少なくなりました。

○ 今年一年間、よく身体を動かしたと思う方

身体の手入れをよくしたなと思えば結構です。今朝も山崎先生に棒術を教えて戴きました。朝方身体を動かすのは良いですね。ただし、やはり寒いと身体がかじかんでいるから、十分ほぐしてから動かすのがよいと思います。

○ 今年一年間、自分磨きをよくやったと思う方

自分磨きを自分ひとりで出来なければ、色々な友人を引っ張り込んでお互いに切磋琢磨するのが良いと思います。

○ 昨晚寝る時に、来年のことを考えて、これが出来たと思って寝た方

何々がしたいなと思って寝るのではなく、出来たとイメージすることがミソです。私は今、中江藤樹を一生懸命書いていますので、来年は原稿を書き終えて、東京駅の八重洲ブックセンターや丸善に行ったら私の書いた中江藤樹が置いてあった、ああ嬉しい！と思って夕べは寝ました。

お時間が参りました。最後に一言申し上げます。

来年は飢え死にが目立ちます。備蓄していない人、路上で生活をしている人、こういった人たちが飢え死にをしていくと思っています。世界各国で見ても、飢え死にのスピードが上がるでしょう。「知足」、ほどほどだと申しましたが、飢え死にまで行くのは大変なことですから、これは助け合いをしていかねばならない時代に入ると考えています。今日の論語にもありましたが、いつでも命を投げ出して人を救えるかという、これはなかなか大変なことです。ですから来年は命の重さを感じる時代になるであろうと思います。来年は辛丑、辛い・酷い・苦しい年回りなので、自分はどうやって人さまの役に立てばよいかをキーワードで考えていくと、来年一年間をしっかりと歩みで進んで行くことが出来ると思っています。

一年間お付き合い戴きまして大変有難うございました。今年も皆さん良い年で過ぎたようですので、来年もどうぞ良いお年をお迎え下さい。